

## 事業報告書

1 支援団体名	筑後川まるごと博物館運営委員会
2 事業名称	災害記憶の伝承活動～65年前の筑後川大水害の記憶を伝える～
3 実施日時	2018年6月～2019年2月
4 実施場所	福岡県久留米市筑後川防災施設くるめウス
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>① 7月7日予定の大水害を伝える会は前夜からの豪雨水害のため延期せざるを得なくなり、7月21日に行った。当日は昭和28年筑後川大水害の体験者に集まっていただけで、当時の体験談を語っていただく証言発表会を筑後川防災施設くるめウスで行った。事前募集に応じた方2名と当日会場から飛び入りで3名の方が身振り手振りで詳細に発表した。また主催者から、ハザードマップと当時の写真を示して比較しながら、洪水時の水位をわかりやすくして大水害当時の状況をスライドショーで聞き語り解説した。7月21日実施 18人参加</p> <p>② 証言発表会と写真展と同時に水害に関する記憶の収集を行った。体験者に記憶ノートや付箋紙に情報を書き込んでもらいまた関連の資料の収集をして情報を集めた。</p> <p>③ 昭和28年筑後川大水害写真展を筑後川くるめウスで行った。子どもたちから高齢者まで、家族連れの方など多くの来館者が写真とその解説文に興味深く見ていた。7月の約1か月間くるめウスにおいて展示した。約720人</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>① 実際の体験者の証言は聞く人に臨場感を与え、普段の災害への備えを思わせた。</p> <p>② ハザードマップと同時に示す当時の大水害の写真は、当時の現場や周辺の様子が充分にわかり、現在のその場所もひとたび水害となれば水位がそこまで来ることが予想でき、住民にとってわかりやすく災害に備えることができると、好評だった。</p> <p>③ 一般の方から災害の記憶資料を収集し、公開することで、水害を知らない人や後世の人々に水害は過去のことでなく、今も起こりうることを実感させることができた。</p>
6 参加内訳	総人数 724名
	(1) 主催者参加 4名
	(2) 日本人参加 ((1)を除く) 720名
	(3) 外国人参加 ((1)を除く) 0名
7 今後の方針	大水害から65年を経過しても、いつ起きるとも知れない水害への備えは常に行う必要がある。人々に過去の災害と備えの必要性を伝えるこの活動は今後も継続して行く必要がある。これからも体験者の声を伝え、そこから教訓や備えの大事さを広めていきたい。

7月21日

昭和28年大水害体験者による証言発表会



7月21日

昭和28年大水害体験者証言発表会



筑後川防災施設くるめウスで大水害写真展



写真に付箋紙を張ることで情報収集をおこなった



体験者に当時の資料、写真などを提供していただいた



来場者に大水害の体験談を記入していただいた

